

職員研修TOP >> 講演会・研修資料アーカイブ >> 研修QandA : 平成18年度 第2回講演会「保存の科学と書庫環境」

研修QandA

能力開発・研修部会が主催した研修に関する質問について回答いたします。

■ 平成18年度 第2回講演会「保存の科学と書庫環境」

Q 資料のp.6には「相対湿度を65%以下、少なくとも70%以下にたもつ」とあるが、p.12には「室内の環境を相対湿度60%以下に維持する」とある。どちらが正しいのか。60%以下だとカビが生えるので、自分のところでは60%以下を目安にしている。

A 相対湿度を60%以下に抑えるのが望ましいが、現実的には60%以下というのは難しいので65%以下とした。カビは湿度だけの問題ではなく、空気や埃の部分的な滞留もカビの原因になる。たとえば棚の上と下では相対湿度がかなり違う場合もあり、空気が溜まらないようにすることが重要である。(園田)

Q 掃除機で埃を吸い取ることは効果があるか。

A フィルタのある掃除機を用いるべきである。掃除機からの排気や、掃除機自体が資料等にぶつかることが考えられるので、2人で行うのがよい。(園田)

Q 資料に埃がたくさんついている。

A 隔離して埃を除去するとよい。(園田)

Q 建物に外気を入れないほうがよいか。

A その建物の目的による。通常は展示室や閲覧室など人間のいる空間ではある程度外気を取り込んでいるが、収蔵庫は外気をそれほど取り入れていない。また、外気の状態にもよる。外気が安定しているときは取り込んでも中の環境が保たれるが、梅雨時などはなるべく避けたほうがよい。外の空気を入れるときはフィルタで排気ガスなどをカットするべきである。(園田)

Q カビを殺す性能を持つ空気清浄機を使用するのは効果的か。

A 空気清浄機によって性能に違いがあると思うが、役には立つだろう。ただ、カビを殺す効果があるからといってカビの発生を抑える効果があるとは限らない。(園田)

Q 図書資料の簡単な脱酸性化処理の方法はないか。

A 現物を保存するのか、情報の保存だけでよいのか、という問題がある。脱酸性化の処理にかかるコストを考え、バランスをみて判断しなければならない。(園田)

Q 酸性紙使用の資料が酸を空気中に放出するということはあるか。リトマス紙を置いてモニタリング調査をしているが、洋書を置いている周辺の空気が酸性に傾いている。

A そのようなデータは持ち合わせていないが、本は一冊一冊が閉じられた空間であり、マイクロフィルムに比べると周囲に与える影響は少ないと思われる。和書にしる洋書にしる、保存箱に入れるとある程度外部からの影響は緩和される。環境モニタリング調査を今後も続けて、何か分かったら教えていただきたい。(園田)

Q マイクロ資料から酢酸臭がしているが、どういう対策をとればよいか。

A 劣化が始まっている。他の資料への影響を考えると隔離したほうが良いが、そのままビニール袋に入れると中に酢酸がこもるのでかえって劣化が加速度的に進行する。モレキュラーシーブなど酢酸を吸着する作用のあるもの、湿度を調整するシリカゲルなどを入れて保存すると、劣化速度を抑えることができる。(園田)

Q 自分が管理していない図書館・室の資料に付着したカビは拭ってもよいか。

A カビの処理にあたっては、安全性を考えマスクをして処理すべきである。カビが発生していれば環境整備の問題もあるので、その図書館・室の管理者に知らせて処置をお願いするとよいだろう。(園田)

■ [上に戻る](#)

Please send your feedback to kenshu@kulib.kyoto-u.ac.jp.

Copyright(C) 2005 Kyoto University Library, Staff Training Working Group All Rights Reserved.